

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4791100029		
法人名	有限会社 介護サービスやんばる		
事業所名	グループホーム国頭		
所在地	国頭村字辺野喜26-1		
自己評価作成日	令和 3年 2月 16日	評価結果市町村受理日	令和3年5月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyvoCd=4791100029-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyvoCd=4791100029-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント
所在地	沖縄県那覇市上之屋1-18-15 アイワテラス2階
訪問調査日	令和 3年 3月 4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム国頭は、やんばるの自然に囲まれ旧小学校辺野喜分校を改装して出来たグループホームで、穏やかな時を過ごせる環境にあります。  
入居者、地域、職員の三本柱で地域に溶け込み、支え支えられる関係を作り、開かれたホームをめざしています。  
事業所に看護師を配置し、診療所の医師の協力のもと、日頃の健康管理を含め、緊急な事態にも対応できる体制を取っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、地域の方が通った馴染みのある学校を改装してできた事業所で、地域住民が気軽に訪問でき、地域交流室はいこいの場(コロナ禍で自粛)で台風時には地域の方の避難場所として活用している。運営推進会議メンバーに区長、老人会、成人会が参加している。今年度、新体制になり職員一人ひとりの声を聞き話し合いを重ね理念を見直している。事業所内での役割を利用者の職歴を活かして支援に繋げている。馴染みの人と場も関係が途切れないよう、ふるさと訪問として介護計画に反映し、定期的に訪ね、利用者の住んでいた部落をドライブしながら問いかけたり、利用者の話を聞くことで回想となっている。居室に備え付けのベットもあるが利用者の好みの電動ベットの持ち込みや夜間ベットからの転倒リスクの高い利用者用に、床にエアーマットを置いて転倒防止対策に繋げている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者、計画作成者の交代があり、開設時の理念を見直している。地域密着型サービスの意義や役割を考えながら、職員一人ひとりの声を聞き、利用者の健康面、生きがいのある暮らし、地域との関わり等、話し合いを重ねて作成している。新年度に向けて、理念の振り返りを行うとしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めているが、今年度は新型コロナウイルスの感染予防施策により交流を中止している。	コロナ禍で地域の行事参加や交流は難しく、朝の散歩や共同売店に買い物に出かけたり、利用者一人での外出には見守りや地域の方より連絡がある。区の清掃活動や正月のグランドゴルフ会にはぜんざい作りに職員が参加している。台風時には区長からの依頼で交流室を地域の方が避難場所として活用している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や貢献に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか区と話し合い、取り組んでいる。 1) 地域の環境整備 2) 行事への相互参加		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。また地域住民の中での介護ニーズについても話し合われている。	運営推進会議は、書面報告も含め定期的に年6回開催し、事業所の状況、事故、ヒヤリはっとも報告されている。利用者、行政、知見者、地域の方が参加しているが家族の参加は確認出来なかった。又、会議内容は報告のみで、会議録、外部評価の結果は公開していない。	運営推進会議に、家族が参加しやすい工夫、事業所の取り組みや課題等について、委員が話しやすく、意見を言いやすいよう提起の工夫、議事録記述の工夫に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所は、市町村担当者を運営推進会議に参加していただき、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。村内ケアマネ連絡会にも参加していたが今年度は感染予防の観点から実施されていない。	村担当者や地域包括支援センター職員が、運営推進会議に参加し、また電話での連絡や役場に出かけたり、包括支援センター職員が来訪時に情報交換している。区の依頼で台風時に地域交流室を住民が避難場所として活用しているのので、緊急時に備えて、区長さんと一緒に発電機の要請を行政にしている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	居室のカギはかけていないが、安全維持の観点から、自動ドアを一時的にロックすることがあるが、持続的にロックすることはない。	「身体拘束をしないケア」の方針を契約時に、利用者、家族に説明し実践している。管理者、職員は身体的拘束等の適正化検討委員会について、十分に理解してなく、運営推進会議の中で身体的拘束等の適正化検討委員会も行っているが「拘束はゼロ」に留まり議事録もない。又、勉強会も行っているが記録はない。	身体的拘束等の適正化検討委員会 は、拘束の有無にかかわらず3か月に1回以上の開催と議事録を作成し、職員への周知が望まれる。研修も年2回以上の実施と記録の作成に期待したい。
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内研修、定例会での勉強会を設けている。管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	職員、管理者は、高齢者虐待防止関連法の理解を深め、虐待防止の徹底に努めている。職員間で話し合ったり、利用者とのコミュニケーションを図り、不適切なケアにならないよう取り組んでいる。研修の実施記録は確認出来なかった。	虐待防止の徹底に関する定期的(年2回以上)な研修の実施と記録の作成に期待したい。
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援できるよう努力している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。契約時に県、市町村の苦情、意見窓口を説明している。	利用者からは、日々の生活の中で要望等を聴く機会としている。コロナ禍で面会の制限やガラスごしの面会の状況で、家族からの意見等を聴く機会は少なくなっているが、病院受診や電話で状態報告しながら工夫して聴くよう努めている。ガラスごし面会で家族の差し入れ時の職員の対応に不満の声があり、管理者は職員に注意喚起している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会(定例会等)を設け、反映させている。又、今年度より介護職員の主任を任命し、業務の円滑化を推進している。	職員の意見は月1回の定例会や日々の業務の中で聴いている。洗濯機とその他の電化製品の購入の声があり、購入や管理者自ら修理等で声に反映している。ハード面では、食堂兼居間近く裏側の「広場を整備、スロープ設置して、非常口にしてほしい」との提案があり検討中である。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善交付金による労働意欲の改善と就業規定マニュアルの整備を進めている。	就業規則も整備され、今年度より介護主任を任命して、働く環境を整え、勤務シフトや年休、希望休の取得の決定を主任が行っている。職員の健康診断の実施は、事業所の補助の1回だけしか確認出来なかった。	労働安全衛生法によって、職員の健康診断が義務付けられている。夜勤を行う職員は年2回の健康診断の実施に期待したい。
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	必要性を感じているが感染予防の観点から現在は行われていない。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築くため、談話や傾聴、昔の出来事や生活の知恵を出していただけるよう環境を整えてゆく。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	感染予防の観点から面会制限はあるが、電話やメールのやり取りも行えるようにした。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	馴染みの人や場との関係性は、アセスメントや家族、日々の生活で本人から聴いて把握に努めている。利用者の職歴を事業所内で活かして、レク活動で中心的な利用者、相談、話を聞いてくれる利用者がいる。ふるさと訪問として介護計画に反映し、生活していた場(部落)を訪ねて地域との関係が途切れないように努めている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。コロナが落ち着き次第、行事への招待等も考えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者全員、言語での表出が可能である。日々の生活の中で聴いて把握に努めている。「牧場をやりたい」「家に帰りたい」等の声が聞かれる。利用者の特性を見きわめて不穏時には、利用者に寄り添いや居室で一人で過ごせるよう対応を統一して支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	サービス担当者会議に、利用者、家族も参加して開催されている。アセスメントは更新時に、長期目標は1年、短期目標は半年、モニタリングは3か月毎に実施している。計画担当者が週1回の勤務で利用者の日々の情報を主任より得ている。月1回の定例会で介護計画について情報交換、報告している。現状に即した介護計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。例えば、医療機関への付き添いや、医療者との情報交換等。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。今年、ケアマネが認知症キャラバンメイトの登録を行っている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	利用者全員、入居前からのかかりつけ医である診療所の医師による訪問診療を受けている。往診後は、家族へ電話にて報告をしている。専門医への受診は家族対応としているが、状況により管理者が移送対応することもある。年1回の健康検査の案内など家族へ説明、相談し、区の一般健診時に、近くの体育館へ職員が付き添い対応し、健康管理を行っている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化や終末期に向けた事業所の方針を契約時に、本人・家族へ説明、確認し同意を得ている。夜間帯など緊急時の対応体制が厳しい状況の為、看取りは実施されていない。事業所としては医療体制の確立に向け、行政へ要請中。医療体制が整えば、看取りの実施を検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。又、院内研修も行っている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	コロナウイルス感染拡大防止の為、避難訓練の実施が延期となり、避難訓練は行われていない。3月中の実施を予定している。夏の台風時、避難所として区の独居の高齢者を4名うけいれている。停電時、事業所に発電機がない為、区長と行政へ要請している。災害に備えた非常用飲料料は5日分確保している。	消防署へ確認指示のもと、独自で昼夜を想定した年2回の避難訓練の実施に期待したい。また地域交流室が地域住民の避難所になっている為、利用者、職員、地域住民の7日分の備蓄を期待したい。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いを慎重に行っている。	職員の入社時、就業規則にて情報管理や守秘義務の周知徹底を行っている。個人情報保護方針及び利用目的は玄関先に掲示している。馴れ合いの中で、不適切な言葉や対応にならない様に配慮している。排泄、入浴支援は同性が対応出来る様に努めている。また利用者が居室に不在時やトイレ使用時はドアを閉め、プライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。」	朝、夕と土、休日(3食)は冷凍食品や地域からの野菜等の差し入れを活用して職員が調理、平日の昼は地域の食堂から配食となっている。食事前に全員の湯茶のセッティング、夕食の味見、食後の片づけ、おやつ作りに利用者は参加している。夕食は利用者と一緒に夜勤の職員が同じ食事を摂っている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた支援をしている。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	個々の排泄パターンや習慣を把握し、自立に向けた排泄支援をしている。日中はトイレ使用し、夜間のみトイレまでの距離を考慮し、ポータブルトイレを設置することで、スムーズに排泄が行え、失敗が無くなった事例がある。また失敗した際の羞恥心に配慮した対応を徹底している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	週3回、同性介助での入浴を基本としているが、排泄の失敗時や本人の希望に添って対応している。入浴前に脱衣場で気分を和らげたり、足浴や足の状態等を観察している。入浴を拒む際は声かけの工夫、職員や時間を変更して無理強いせず対応している。浴室、脱衣場、居間を温度調節器で調節している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。		
47	(20)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	週1回、看護師が服薬を確認し、看護師の指示のもと主任が服薬セッティングを主に行っている。与薬は勤務で固定し徹底している。薬の変更時は、看護師より全体へ説明し、勉強会で看護師より、副作用や効能、服薬しないとどうなるかなど薬の目的の周知、共有に取り組んでいる。また安全な服薬支援に向け、服薬支援に関するマニュアルも整備している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。ふるさと訪問ドライブ等。		
49	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	その日の気分、希望に合わせて、近くのヤギ小屋や川沿いの散歩、共同売店へ買い物など積極的に外出支援を行っている。また昨年より、1～2名の少数で、生まれ故郷を訪問し、馴染みの地域との繋がりを大切にしたい企画も定期的実施している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。		
52	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	リビング前には、対面式台所があり、調理やご飯が炊ける匂い、音が間近に感じられ、家庭的な雰囲気になっている。廊下の壁には、季節に合わせ、ひな祭りの折り紙作品が飾られている。交流室にはいつでも楽しめる様にカラオケ機材を設置している。また事業所周辺の必要な個所に、手摺を設置し、いつでも屋外で花木や野鳥が楽しめる様に工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。		
54	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	各居室にベット、洋服ダンスが備え付けられているが、使い慣れた馴染みのあるベットや家具、日用品などの持参もあり、これまでの生活と変わらない環境作りに努めている。また安全に自力で起床動作が出来る様に、臥床時、ベッドサイドにエアマットを設置し、転落・転倒防止を図るなど個々に合わせた居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。		

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4 (3)	運営推進会議に、家族が参加しやすい工夫、事業所の取り組みや課題等について、委員が話しやすく、意見を言いやすいよう提起の工夫、議事録記述の工夫をする。	運営推進会議委員の本来の目標に立ち返ってやるべき事項を遂行してゆく。	今年度は家族の参加と、議事録の詳細と明瞭に取り組む。	3ヶ月
2	6 (5)	身体的拘束等の適正化検討委員会は、拘束の有無にかかわらず3か月に1回以上の開催と議事録を作成し、職員への周知が望まれ、研修も年2回以上の実施と記録の作成が不備。	身体的拘束等の適正化検討委員会を発足させ速やかに適正化に取り組む。	管理者、職員は身体的拘束等の適正化検討委員会について、十分に理解するよう、運営推進会議の中で身体的拘束等の適正化検討委員会を行い、議事録を作成し、勉強会の資料を保存する。	3ヶ月
3	7 (6)	虐待防止の徹底に関する定期的(年2回以上)な研修の実施と記録の作成が不備。	高齢者虐待防止関連法の理解を深め、介護の適正化を図る。	職員、管理者は、高齢者虐待防止関連法の理解を深め、虐待防止の徹底に努め、職員間で話し合ったり、利用者とのコミュニケーションを図り、不適切なケアにならないよう取り組み研修の実施記録を作成保存する。	3ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。